

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人 OPEN JAPAN

代表者・役職名 氏名 緊急支援プロジェクト担当 肥田 浩

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

災害支援エキスパート講習会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神淡路大震災時に集結したメンバーが東日本大震災時に再度集結して以降、全国の被災地で活動しています。2012年3月より一般社団法人 OPEN JAPAN を設立しました。会員数は約 30 人です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

過去の被災地において、現場支援コーディネーター、技術系災害ボランティアの講習会を開催し、自ら被災された住民や、各関係機関、全国からのボランティアが参加することによって、その経験を生かし、次につなげ備えるための技術・意識の向上を目指し連携を図る。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

本団体が主催し DRT-JAPAN などの連携団体と地元各関係機関と協力し、9 月度熊本県南阿蘇村 10 回、4 月度東京都あきる野市 2 回、座学講習と現場においてチェーンソー、セイバーソー、ロープワーク、重機やダンプを使用した安全管理講習、実技講習を実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

講習会を 12 回実施し、延べ 100 名を超える講習会となりました。講習会にて、安全管理を含む基本的な動作の確認、資機材の使用法、重機を使用した支援活動に伴う安全対策の徹底を図ることにより、現場対応の知識・技術の向上に繋がりました。災害支援エキスパート講習会開催によって、各地での講習会が執り行われることに繋がっております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度まで

多発化、広域化する災害において、技術系エキスパートのより一層の拡大を図ることが課題としてあげられます。全国各地でのより一層のエキスパート講習会の開催を図る必要性があります。そのための講師の育成、協力者の理解を図り、講習会の定期開催に繋がってまいります。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

○参考資料あり・特になし

【活動写真】

